



○事業趣旨○

体験活動や青少年教育に関する学習を通じて、法人ボランティアと併せて、自然体験活動プログラムを指導する自然体験活動指導者（リーダー）を養成する。

○参加者内訳○

対象	男	女	計
高校生	0	5	5
大学生	10	47	57
社会人	6	1	7
合計	16	53	69

○活動日程

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
5月4日		受付	開講式	ガイダンス	青少年教育における体験活動	昼食・休憩		自然体験活動の技術①		つどい・夕食・休憩	青少年教育施設におけるボランティア活動	情報交換会		入浴	
5月5日		自然体験活動の安全管理①		自然体験活動の技術②（昼食含む）		自然体験活動の安全管理②	休憩	ボランティア活動の意義		つどい・夕食・休憩	対象者理解	青少年教育施設の現状と運営	定例制度説明	入浴	
5月6日		自然体験活動の特質		昼食・休憩	自然体験活動の指導	休憩	認定試験	昼食	閉講式	解散	※合計 22.5時間				

○研修トピックス○

「自然体験活動の技術・安全管理」

信州大学教育学部講師である瀧直也氏を迎え、講義・演習を行った。講義の中では、危険の種類や要素を知るとともに、KYTシートを用いて危険を発見する練習を行った。また、演習では鉋の扱い方や火のつけ方・調整の仕方を全員が学び、実際に野外炊飯を行いながら習得に努めた。2つのコマを関連付けながら実施したことで、基礎的な技術を習得しつつ、安全管理の実際について、活動プログラム中の具体的な姿を教材として考えることができた。



「対象者理解」

福島県立猪苗代支援学校教頭である江見浩二氏をオブザーバーとして招待し、講義を行った。講義では、対象者の発達段階や特性を学ぶとともに、具体的な事例をもとに、グループで対象者の言動の背景や対応策を考えた。参加者からは、「子どもとかわる時は、対象者理解が最も必要だ。」という感想が聞かれた。「対応を考えるのが難しかった。」、「子供の特性をもっと勉強したい。」など、さらに学びを深めようとする意欲の高まりも見られた。



「自然体験活動の特質」

当施設の山岳研修指導員の大竹力氏を迎え、地元猪苗代地方の自然環境を活かした体験・講義を行った。体験では、猪苗代湖の湖岸で採集したビーチグラスを用いて、万華鏡作りを行った。講義では、当施設で登山の活動プログラムが数多く実施される背景を踏まえ、自身の指導経験をもとに、必要な知識等をお話しされた。実際の事例が数多く扱われたことで、本講義で学んだ内容を実際の場面に活用しようという意識が感じられた。



○成果と課題○

<成果>

○法人ボランティア養成と自然体験活動指導者（NEAL リーダー）の概論Ⅰのカリキュラムを同日程で開催したことで、ボランティアにとって必要な知識・技術に加え、自然体験活動を指導するための専門的な知識・技術の習得が図られた。今後教育事業等で、より質の高い教育サービスを提供することが可能になると考えられる。

○法人ボランティアとして64名、自然体験活動指導者（NEAL リーダー）62名を登録予定である。

<課題>

●2つのカリキュラムを同時に実施したことで、3日間で24時間の講義・演習を設定することとなった。参加者の疲労軽減や講義・演習内容の理解の促進のためにも、分割での実施が望ましいと考えられる。

●参加者はボランティアや自然体験活動の経験差があり経験豊富な方にとっては、内容に深みを持たせることが難しかった。来年度以降も同様の参加者層が予想されるため、ボランティアセミナーは初心者向け、自然体験活動指導者養成はさらなるスキルアップを目指す方向け、というように対象を明確にして実施することが望ましいと考えられる。